



シルバーだより

No. 305

平成 27 年 11 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

— 秋たけなわ —

副学長 木村 國子

秋、最も美しい季節を迎えた。寒暖の差が激しかったせいか、今年の紅葉は、一段と綺麗に色付いている様に思われる。

10 月は、上旬、中旬、下旬と数回に渡り写真撮影を兼ねて美しい紅葉を楽しむことが出来た。10 月上旬の長野県白駒池は、池の周りのドウダンツツジが真っ赤に色付き迎えてくれた。中旬に訪れた蓼科は、林の中で赤や黄色に化粧した蔦漆(つたうるし)がよい被写体になって楽しませてくれた。

下旬は、谷川岳、一の倉沢。全山まさに錦の衣に包まれて、雪渓を抱く谷の姿と融合し、圧倒される美しさ、迫力だった！この様な秋の風景は、日本の誇れる美観の一つだろう。つくづく日本に生まれてよかったと思えるひと時であった。また、遠くに出向かずとも味わえる秋の贈物は、身近に色々あるだろう。



秋といえば、紅葉だけでなく、楽しめることは沢山ある。暑からず寒からず気持ちの良い清涼な空気に包まれ、読書、スポーツにも最適な季節だ。

今話題の本、前に一度読んだ本、気になる本等、この機会に紐解いてみるのもよいだろう。私も最近、古い本だが「怒りの葡萄」(スタインベック著)を読む機会があったが、今の時代と比較し、重ね合わせながら読み、学ぶことが多々あった。最近は、新聞に載る小説も読みごたえのある物がある。

芸術の面でも秋は実り多い。シルバー大学の学園祭は、シルバー大学の生徒一人一人の表現活動、学びの集大成として誇れるものであり、多くの方々に観ていただき、励ましていただいた。「なんと素晴らしい出来栄え」という作品に出会うのも嬉しい。しかし、「一生懸命の姿」がじいんと伝わってくる作品との出会いはもっと嬉しい。皆さんも多くの作品と対峙して、様々な思いがあったことだろう。

来観の皆様は厚くお礼を申し上げますと共に、この励ましが、これから益々意欲ある学びにつながることを願っている。

《 吟行記 》

今回の俳句教室の吟行地は、小石川後樂園でした。6月10日午前10時に集合して、都心にこのような場所が残されていることに驚きつつ入園しました。

園内は、山、川、谷、池などのある回遊式庭園になっており、木々が鬱蒼として昼なお暗く、石畳を登ると、時代を逆戻りした別世界にいる様な心地がしました。古を偲びながら暫し想像力を働かせ歩みを進めると、池には水蓮が咲き、アメンボや蜻蛉、そして亀の甲羅干しと様々な生物が見られ、時間が止まった様な長閑な時を刻んでいました。また、花々には蝶、木々には鳥と豊かな自然に感動しました。菖蒲池では花菖蒲が満開で、昨日生まれたばかりというカルガモの子七羽が、親の後を追って動き回る様子がとても可愛らしく、絵になるような光景で、間近に見ることが出来て楽しかったです。

初夏の日差しの中、このような世界に足を踏み入れることができ、さてどのような句を作ろうか、どのように作れるのかとわくわくしながら、色々な思いを持ち帰りました。

帰りには、近く中華料理店で、親睦を兼ねて安くて美味しいランチを共にしました。また秋にも吟行会が予定されているので、どのような所へ行けるのか楽しみです。

ここに吟行句をご紹介します。



睡蓮やビルの谷間で繁と咲く
早逝の母へ問ひつつ梅漬ける
母親に抱かれ軽鴨の子見る夢は
緑陰の延段を踏み江戸時代
円月橋静寂の池に蓮浮き葉
花菖蒲パリコレモデル並ぶかに
昼の闇小川清しき濃紫陽花
鷹の碑に出会ふ歩道の青葉闇
軽鴨の親子を守る花菖蒲
白南風に雲の動きの軽やかに
善きことを集めて今朝の牡丹かな
軽鴨の子の親のひと声まわれ右
透きとほる川の小路に南吹く
後樂園蛍通ひ路遺されて

まさよ
芽衣
スミ子
霜月
源一
恒
美津江
朋子
知恵子
信
悦
とう子
恭子
京

(俳句教室 熊崎 知恵子)

《 レジェンド塚田先生へ 》

「アジャラカモクレンキューライス、テケレッツノパツ」これは落語の名作《死神》のなかの死神退散の呪文です。私ゃこれを唱えて、先生にこちらにきてもらいたかった、ホントに。布団に寝る間もあまりない逝き方してくれたんで、とりついた死神に消えてもらうこの手はダメでしたね。でもこうなる前にこの手がありましたよ。そうです、寄り合いの最初にみんなで唱えるアレ。

「寿限無、寿限無……長久命の長助」先生の名前をこれに改名すればよかった。今年の学芸会に先生が作ったお面をかぶって下手な踊りを見せたのは私でしたが、やっぱり先生がかぶった方が当然長生きしてくれたはず。

ところで私たちの教室はいつも寄り合い場、先生はここでは“大家さん”他はご隠居さん、八つつあん、熊さんなどがいて“浮世床”さながら和気あいあいすごさせてくれました。



先生は私より一つ上ですが同学年でした。いま私には分かり合える人は数少ないです。塚田先生はその分かり合えるかけがない人だったことに今ごろ気づきました。私は先生に頼まれるままに色々なことを手伝いさせてもらいましたが、私の方から先生のなかに入っていかなかったような気がします。もっともっと友だちになりたいのなら分かってもらいたいのなら、物理面だけでなく健康面、心理面なども分かってやらなければだめでした。いまさら悔やんでも仕方ありませんが一。

最後に、世の中こんな進んだ世界になったのだから～伝説の男、塚田先生！あの世からは是非発信してください！（私たちはメル友でしたね）なにしろ、あなたと私の間は、ぜったい『ツーカーだっ』 受信OKです！

(日本の話芸長屋 月番 鷲坂 善孝)

《 夕日は何故赤い？ 》

水彩画教室講師 遠藤みつひさ

今まで青かった空が夕方に赤く見えるのはどうしてだろう？と考えたことがありますか。

太陽光線は波(波長)を打って地球に届きます。太陽光の赤色は波長が長く、青色の波長は短くなります。短い波長の青は空気中のチリで散乱されやすく、長い波長の赤はチリの隙間を通り抜けて遠くまで届きます。

地球で考えると、昼間の真上の空の空気の厚さと、夕方の地平線の彼方までの空気の厚さは夕方の方がはるかに厚いため、青色は遠くで反射し目まで届かず、厚い空気の層を通り抜けてきた赤色が、私たちの近くに来てからチリで散

乱されるため、空が赤く見えるのです。

童謡の「夕焼け小焼け・・・」の世界が味気なくなりますが、この理屈を応用したのが「空気遠近法」で、風景画の遠近感を表現するために景色が遠くへ行くほど青っぽく、かつ薄くしていく方法として利用されています。

さらに、「色彩遠近法」という色の違いによる距離感の錯覚を利用した遠近法があります。室内などそれほど広くない所でも、赤と青二つのものが同じ距離にあった場合、「赤系統」の物は前進色と言うように、見た目に近くに感じるし、「青系統」の物は後退色と言うように遠くに感じるので、この理屈を利用して手前の物を赤系統にして、奥の壁などを青系統にすると色彩によって遠近感が強調されます。

シルバーだより 301 号に載せた《隻眼の剣豪》の中で、「放射遠近法」について記述しましたので参考にして下さい。「遠近法」ともう一つ「光と影」、絵画を鑑賞する時はこの事を思い出していただくと有意義な鑑賞となるでしょう。

・・・11月の教室授業一般公開のお知らせ・・・

11月に限り、各教室の授業をどなたでも見学できます。来年度の申込の参考にして下さい。但し、日程・会場に変更のある場合がありますので、事前に事務局にお問い合わせの上ご見学ください。 事務所 ☎3801-5740

◆◆◆◆ 学 園 日 誌 (10 月) ◆◆◆◆

7 日	常任理事会・役員会 (学園祭・研修旅行他)	23-25 日	学園祭 ムーブ町屋 3・4F
		25 日	都電ポスター取り外し(有志)
12 日	都電ポスター貼り(広報部)	28-30 日	研修旅行(福島の旅)
21 日	広報部編集会議	29 日	シルバーだより 305 号作成

※ 事務局だより ※

1. 学園祭お互いにごくろうさまでした。会場は熱気にあふれ、多くのご来場の皆様から、たくさんの称賛の言葉をいただきました。来年もがんばりましょう。
2. 11月の教室変更のお知らせ
英語教室：13日(金曜日)のみとなります。

(27日分は1/15に変更となります。)

(事務所) TEL 03-3801-5740 FAX 03-3801-5691

(メールアドレス) arakawa-silver@tcn-catv.ne.jp



室長・田原